



笑顔で大人の仲間入り

いきいきとした町づくりをめざして

議会だより かつうら

No.22

2003. 2. 1 発行

発行 徳島県勝浦町議会
編集 議会広報調査特別委員会
〒771-4395 徳島県勝浦郡勝浦町久国
TEL (08854) 2 - 2511

補正予算を可決 — 2

13年度決算を認定 — 3

常任委員会の活動 — 4

合併枠組みに危機 — 6

柳原県道拡幅難航 — 6

今山橋撤去で思わぬ出費 — 7

議員報酬削減 — 7

9 議員町の考えをたず — 8

美しい自然や人の暖かさをいつまでも — 16

5, 303万円など

万円を可決

総額 34億8, 917万円に

12月定例会

その主なもの

災害復旧費	5, 303万6千円
隣保館費	704万5千円
林業費(有害鳥獣買上)	35万円

特別会計補正予算

国民健康保険 (総額 8億69万8千円)	98万1千円
介護保険 (総額 5億8, 922万5千円)	622万5千円
病院事業 (レセプトコンピューター導入整備)	1, 000万円

このようなことが決まりました

十二月十日から十八日までの九日間開かれ、十四年度補正予算、条例の一部改正など十一議案を審議し、全員一致で可決しました。また、総務常任委員会に付託の十三年度各会計の決算を認定しました。一般質問には九人の議員が登壇し、町の考えをただしました。

議案に対する主な質疑

問

災害復旧の件数と内訳は。

答

建設課長 河川七件、道路十二件、農業施設が三件である。災害箇所の見えが遅れ、申請できなかった場合はどうするか。

問

建設課長 緊急を要する場合は町単で対応する。

答

隣保館補修工事の内容は。

問

福祉課長 国・県の補助金を活用し、大規模改修を行う。

答



大規模改修する隣保館

一般会計補正予算

災害復旧費

6,753

一般会計 41億7,299万4千円など

平成13年度の決算を認定

答

問

答

問

答

問

開通までに十五年以上もかかると思われるので、早く工事が進むよう道幅等を含め、工法の工夫をしてはとの意味である。

意味か。

立川―相生線の工法を検討されたいとはどういう

個々の協力をお願いしながら、町管理に向けて努力してほしいとの意味である。

簡易水道施設の町管理に努力されたいとあるが、

使用料の値上げも方策の一部かと思う。

味なのか。

農業集落排水事業で健全運営の抜本的な方策を検討されたいとあるが、使用料の値上げも含めた意

総務委員長に対する質疑

17項目の意見をつけ

総務常任委員会に付託していた13年度各会計の決算について、委員長から17項目の「特に留意すべき事項」の意見をつけ、認定すべきと報告があり、質疑の後、全員一致で認定しました。

留意すべき事項の主なもの

- 職員の時間外勤務
適正な職員の配置を (総務課)
- 国保会計
基金及び繰越金の適切な運用を (税務課)
- 農業集落排水事業
健全運営に向け抜本的な方策の検討を (住民課)
- 簡易水道施設
町営に向けて努力を (住民課)
- 法期限後の同和施策
地域住民の意識改革や理解を求めるなどの対策を (福祉課)
- 畑総事業
水質浄化対策を早急に (産業振興課)
- 林道開設事業
立川―相生線の工法等の検討を (建設課)



原田副議長

副議長に
原田昭三議員を
指名推選

産業建設

イノシシ

二十五頭を捕獲

十二月四日に委員会を開き、補正予算、立石正一氏の損害賠償請求訴訟の経過報告、立川の農地転用問題などについて説明があり審議しました。

補正予算

建設課長から 二十二箇所の災害復旧費として五千三百万円余りと、産業振興課から有害鳥獣買上費など四十二万円の補正予算を十二月議会に提案したいと説明がありました。

問 災害査定では被害箇所の何割くらいが認められるのか。

答 建設課長 今までは九割程度である。

問 有害鳥獣捕獲の状況はどうなっているか。

答 産業振興課長 イノシシ二十五頭、シカ九頭などの捕獲があり、すでに当初予算百万円を十万円余りオーバーしている。

委員会として 補正予算の十二月議会提案を認めました。



捕獲されたイノシシ

損害賠償事件の経過

建設課長から 高松高裁が立石正一氏の訴えを棄却したが、同氏は最高裁に上告したと報告がありました。

問 裁判には出頭したのか。また、費用は。

答 建設課長 裁判は五回行われ三回出頭した。費用は成功報酬も含めると弁護士に二百五十万円程度必要である。

立川地区の農地転用問題については、産業廃棄物投棄の恐れもあり、全員協議会で協議することになりました。

活動報告

勝浦会館大規模改修

厚生

十二月三日、十八日に委員会を開き、一般会計および勝浦病院事業などの補正予算、また、老朽化している勝浦会館の見学と沼江保育所の廃止に伴う利用計画について説明があり、審議しました。

問 町の振興計画では十三年度に勝浦会館改築の計画となっていたが。

答 福祉課長 建て替えることは財政的に難しいので、今後、状況に応じて補助事業などを活用し、改修を行っていきたい。

問 大規模改修計画となった経緯は。

答 福祉課長 当初予算では町単独事業であったが、国・県の補助が四分の三の有利な事業を活用し、行いたい。

勝浦病院 レセプトコンピューター を導入

問 導入した理由は。

答 病院事務局長 外来、薬局、詰所間の回線連絡が可能となり、事務処理の迅速化と人件費などの節減が図れる。七台の端末機器を購入する計画である。



改修する勝浦会館を視察

委員会として 補正予算の十二月議会提案を認めました。

沼江保育所の 跡地利用

福祉課長から 十五年度廃止する沼江保育所跡地を、子育て支援の拠点施設として改築計画が示されたが

委員会として 施設の管理運営や利用計画の内容が不十分なので、再度委員会を開いて審議することになりました。

総務

職員の基本給 引き下げ

十月二十三日と二十五日、委員会へ付託された十三年度決算状況を審査し、認定しました。

また、十二月二日に職員の給与に関する条例の一部を改正する条例について審議しました。

総務課長補佐から「人事院勧告に基づき、職員の基本給と、配偶者の扶養手当の引き下げ、また、三ヶ月末手当を廃止し、六月と十二月に再配分する条例を十二月議会に提案したい」と説明がありました。委員会として 提案を認めました。



職員の給与引き下げ

厚生常任委員会視察報告

地域密着の病院経営をめざして

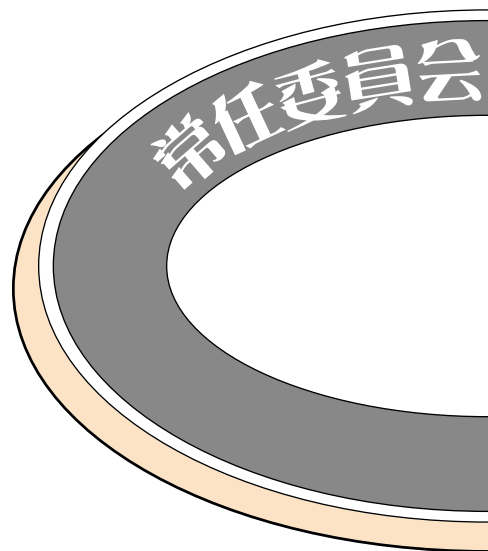
ねあがり 石川県根上総合病院

厚生常任委員会は十月二日から三日間、石川県根上町の国民健康保険根上総合病院で一般、療養病床施設の運営、石川県七尾市の能登総合病院で市町合併への対応について視察研修を行いました。

根上町は金沢市の南方にあり、人口約一万六千人、町内を北陸自動車道が通り、交通の便が良くベッドタウン化が進んでいる町です。

一般、療養病床、老人介護、保健施設などいづれも病院直営の施設です。全病床百四十三床のうち一般百三床、療養四十床で、患者を一般病床から療養病床や老人介護、保健施設へ移行するなどして、一般病床の在院日数の基準確保に努力しています。十二年に療養病床を設置しましたが、長期入院患者が増えることを心配しています。

勝浦病院としても、医療法改正による病床区分の見直しで、看護師の配置基準や入院患者の推移などを見極め、地域に密着した病院経営をめざして、入院医療体制などの整備が求められています。



合併の影響は少ない

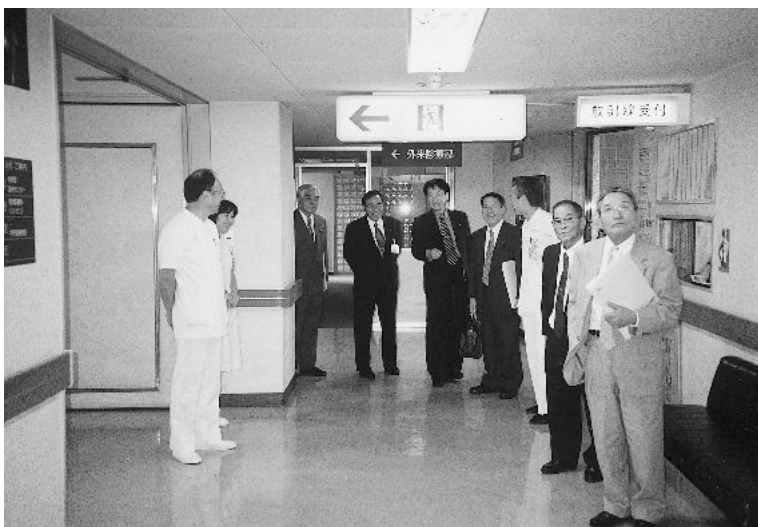
石川県能登総合病院

昭和四十四年に七尾鹿島広域圏事務組合として七尾市外六町で設立、病院経営、消防、し尿、ごみ処理などを広域行政で取り組んでいます。

十四年四月に一市六町の中の一市三町が合併法定協議会を設立、十六年十月の合併をめざしています。

病院として、設立当初から一市六町を経営母体としているため、その中の合併なので経営への影響は少ないとのことですが、病院職員の合併後の身分などの位置付けが課題となっています。

本町でも一市四町の合併協議をしています。病院存続は住民の強い要望であり、実現に向け、課題の解消に取り組んでいきます。



石川県根上町総合病院を視察研修

一市四町合併の枠組みに

危機

市町村合併調査特別委員会

十一月七日

第三回の協議会で阿南市と那賀川、羽ノ浦両町の一部事務組合の問題は、十二月には結論を出すとのことで、関係市町が水面下で協議中であるとの報告があり、協議しました。

十二月二十六日

二十四日、羽ノ浦町議会が合併協議会からの脱退決議案を賛成多数で可決したと報告があり、協議しました。

一月九日

どうなる一市四町合併



町長から、一月四日に首長会談があり、協議会をこのまま続けるかどうかを協議した。状況から見て、勝浦町、上勝町は、解散も止むなしとの意見であり、那賀川、羽ノ浦両町は、住民説明会とアンケート調査を三月までに行い、結論を出したいとのことであった。また、小松島市は、今の枠組みで続けるべ

きだとの意見であったと報告がありました。

問 協議会がスムーズに進んでいないのであれば休止してはどうか。

答 町長 本町だけの問題でないので推移を見守りたい。

一月二十二日

一月十七日に開かれた第六回協議会で、合併協議会は一時的に休止することになった。また、羽ノ浦町議会の協議会脱退決議に続いて、那賀川町議会でも一月二十二日、新たな町づくりを考える方向での合併問題に関する決議がされたとの報告がありました。本町として、新しい町づくりに向けての取り組みをしなければとの意見がありました。

柳原県道拡幅難航

勝浦川整備促進特別委員会



工事中の今山ぜき

十二月四日、

委員会を開き、

県農林事務所

耕地課第四課

長から「今山

ぜき」は十月

に河川協議が

終わり、十一

月下旬から着

工して二年間

の事業で事業

費は約三億円

であるとの説

明がありまし

た。また、柳

原工区の水害

防護壁の設置

は河川協議の

結果、下流に

影響を与える

ということ

で設置できな

いとの報告が

あり、審議し

ました。

問 せきの高さ、方向、構造には変

わりはないの

か。

答 せきの高さ、方向、構造は

耕地課長 せ

きの高さは現

問

柳原工区の拡幅は、水害防護壁の陳情を受け入れなければ地元が協力しないというが。

答 建設課長 防護壁の設置は道路を広げるための条件であり、設置できなければ関係者の用地買収はできない。

きない。

今山橋撤去で 思わぬ出費

連合審査会 産業建設常任委員会 勝浦川整備促進特別委員会

第一回会議（十月二十九日）

建設課長から 旧今山橋の橋脚撤去工事中に予想していなかった根固めブロックが二百六十個出てきた。

業者に工事中止を指示したが、すでに掘り出しているので早急に撤去しなくては災害の恐れもある。撤去費用として二百五十万円が必要だと説明がありました。

問 業者が工事中の指示を無視して掘り出したのは問題だ。

答 町長 町にも監督不行届きの点もあり、申し訳なく思っている。

問 工事費二百五十万円の内訳は。

答 建設課長補佐 工事費が百四十一万五千円、諸経費が百八万五千円である。

審査会として 追加工事には諸経費が大きすぎる。また、業者にも中止の指示を無視した責任があるので認められない。業者と十分協議して報告するよう指示しました。



仮置きされた撤去ブロック

第二回会議（十一月七日）

建設課長から 十一月五日に業者と協議した。また、撤去費用については再計算をして八十七万円となった。撤去したブロックは、新今山橋の下流の河川敷に仮置きすると説明がありました。

問 中止の指示を無視した業者の責任は。

答 助役 業者から謝罪はあった。指示の受け取り方が違っていた。

問 ようなので町側にも責任がある。仮置き場所は、町外の人も多く利用する所なので問題がある。

答 建設課長 早い時期に県が業者が撤去することとしている。

審査会として 認めました。

全員協議会

議員報酬削減

町長が議員報酬について審議会に諮問したが、「本町は六年間据え置きにしているのので下げなくてもよいのでは」との意見であったと報告がありました。

議員提案として 財政状況が厳しいので四千円削減し、十九万五千円とすることを全員一致で決定しました。

産業廃棄物 投棄の心配

阿南市の業者から勝浦町大字柳野字中立川の農地千五百五十㎡を埋め立てて資材置場として使用するため、九月十日に農地転用の申請が農業委員会に提出されたとの説明があり協議しました。

問 申請者は解体業者で、産業廃棄物を持ち込む恐れがあり、絶対にストップしてもらいたい。

答 町長 産業廃棄物の投棄であれば、県とも協議して阻止したい。

地元立川住民より反対の請願書が提出されているが、意向を尊重し対応することにしました。また、町も県と協議し監視するよう申し入れました。

勝浦郡議員研修

十一月六日、上勝町で開催され、落合複合住宅（旧福原中学校跡地）を視察し、「侑環境とまちづくり」の花岡史恵氏より、環境整備に関する研究、企画設計など、IT技術を活用した事業の取り組みの説明を受けました。

その後、福原ふれあいセンターで、徳島文理大学教授の大和田建太郎氏による「市町村合併について」の講演がありました。



ジェーン台風時の 最高水位標示を

地元が取り組むなら協力する

(総務課長補佐)

森 健 議員



ことで、洪水災害防止の注意を促してはどうか。秋成総務課長補佐が地元が取り組むなら協力したい。

町道家台―中山線 狭あい部の 早期改良を

問 災害発生から半世紀もたつと、浸水被害のこん跡があった家も新・改築され、当時を知る人も少なくなっている。最高水位の標示を行う

問 町道家台―中山線は沼江バイパスが未開通なことで、沼江不

用地関係者の協力が 必要 (建設課長)

答 坂井建設課長 過去にも改良したが、まだ未改良部分がある。用地関係者の協力が得られれば、財政状況を見ながら早期に着手するよう検討したい。

石原四つ辻北側 道路の改良工事は 十四年度の予算で行う (建設課長)

問 石原の通称四つ辻は北側道路が狭いことと、家台―中山線の交通量が多いことから、通行に支障が出ている。地元の要望もあり、地権者の協力も得られてい

問 全国町村長大会で山本会長は、人口一万人未満の小規模町村の権限を制限しようとする政府のやり方を厳しく批判したと伝えられるが、

るが、今後、どう進めるのか。
答 坂井建設課長 十四年度の町単道路改良費で、西側水路にふたをするなどして拡張したい。

山林の維持管理と竹林化防止の方策は

問 森林は水や環境など生活に重要な影響力を持っている。近年木材価格の低迷、後継者難、高齢化などで維持管理ができなくなっている。官民共同組織による管理が必要になってきているのではないかと。また、せっかくの植林地が竹林化している所もあるが、補助事業等方策はないか。

道を進んでいくのではないかと。
答 町長 財政破たんにならないよう合併を進めていくのが基本である。

答 戸川産業振興課長 山林の維持管理は森林整備地域活動支援交付金制度に加入し、除間伐等の補助事業との組み

合わせて対応していくべきと考えている。竹林化防止策については今後の課題で、今のところ補助事業はない。



最高水位の標示を (写真は吉野川)

介護保険の 減免を

問 本年は介護保険の見直しの年である。

答 数藤理事 合併をしないと将来、勝浦町は財政破たんが生じると思われる。回避するために合併が

定数は 決められない (理事)



神原 忍 議員

中山、横瀬、与川内を 正式地名にしては

住民の同意があれば検討する
(総務課長補佐)

問 合併によって「大字」の二文字が正式地名から抹消される。

現在、中山、横瀬、与川内は大字三溪となっており、通称と正式地名が違っている不便さを感じている人も多い。合併によって戸籍が変更されるこの際、中山、横瀬、与川内を正式地名として復活させてはどうか。



大字三溪の中心部

一市四町合併

新市の職員

一概に

原田昭三 議員



町長の見解は。

答 町長 一万人未満の町村に対する会長の談話であるが、小さい町村を切り捨てるのは大きな問題であり、その通りだと思う。

問 小松島市ぐらいの規模の自治体は毎年四〜五億円の赤字になっていると聞く。一市四町の合併は財政破たん

問 小松島の下水道事業は合併への駆け込み事業でないか。

答 数藤理事 この事業は平成五年に計画していたものであり、駆け込み事業でないと思

一つの手法である。
問 新市の職員定数は。

答 数藤理事 一概に人口七万人のところ

答 町長 資産などを調査しなければなら

ない問題もあり、一号被保険者の見直しについては慎重に検討したい。
答 光井福祉課長 一定の所得基準を決めて、それ以下は減免するという神戸方式を検討している。

答 秋成総務課長補佐 勝浦町史では、明治九年から十数年間「中山村、横瀬村、与川内村の三村が合村して三溪村になっていた」とあり、それが三溪の由来と思われる。

法務局では、このような地名変更の問題はないとの事なので、地区住民から声が上がれば、各地域での同意が得られれば検討する。

答 秋成総務課長補佐 今後、できるだけそのように努力する。

会議開催通知に 工夫を

問 各種会議で効率的に審議を進めるため通知文の中に、詳しい

地籍調査の早期着手を

来年度から取り組みたい（建設課長）

森 敏治 議員



問

上勝町で取り組んでいる地籍調査は、



上勝町の地籍調査

大きなメリットがあり補助率も高い。十五年度に予算要求して早期に取り組むべきと思うが。

答

坂井建設課長 勝浦町の対象面積は七十平方kmで、完成するまでに十五億円が必要と思われる。補助率は国が五十%、県が二十五%、町二十五%のうち二十%は交付税措置がある。

十五年度に基本計画を作成し、各地区で説明会

を開いて協力体制のとれた地域から選定して、国や県に予算要求していきたい。

十五年の

日本経済予測は

問

十四年の日本経済は厳しく暗い一年であった。十五年の日本経済をどう見ているか。

答

町長 マスコミでいろいろ報道されているが、国内だけでなく国際化の中で考えなければならぬ。デフレスパイラルに落ち込んでいく今の経済の仕組みを直さなければ、経済はよくなるかと思う。

来年度の

予算編成方針は

問

十五年度の予算編成にどんな方針で取り組むのか。

答

町長 地方交付税の減少は避けられないので、緊縮予算にせざるを得ない。合併を控え、判断に誤りのないよう重点事業を中心に慎重

に予算配分していきたい。みんなが辛抱し、知恵を出し合って町を守っていく時期にきていることを理解して欲しい。

職員研修五か年

計画の策定を

問

行政は人である。職員が問題意識を持ち自らを高め、豊かな個性、多様な能力を備えた人づくりが重要だと思う。

答

職員の資質向上のため、海外研修などいろんな研修の五か年計画を策定してどうか。

答

町長 国際化の中です。外国を見ることは「百聞は一見にしかず」で良いことだと思う。予算の許す範囲で積極的に取り組むよう努力したい。

どうなった保健

センター建設

総合保健施設を
検討中（福祉課長）



羽ノ浦町の保健福祉センター

問

より充実した福祉の町づくりのため、保健センターの建設を前向きに検討したいとのことであったが、どうなったのか。

答

光井福祉課長 よりよい包括ケアの方策として、勝浦病院に併設または隣接する総合保健施設整備の有効性について、助役を中心に検討を重ねている。概要は、四分の三の補助金と国保保険料を財源に実施する事業で、保健、医療、福祉サービスを総合的に行う施設である。

今後病院の

経営形態は

問

勝浦病院を将来どういう経営形態にするか論議されているが、非常に重要な問題である。結論は出たのか。

答

石尾病院事務局長 十五年の八月末までに病床区分の届出をしなくてはならないので、第四次医療法の改正後検討を重ねているが、まだ結論は出ていない。基本的には、収益性のある病床区分にすべきと考えている。

一市四町合併

先進地の研修は

来年度予算で考えたい（理事）

中田丑五郎 議員



問 合併に関する理解をさらに深めるため町民から公募し、先進地への事例研修や、合併している首長や住民の方を本町に招き、講演会やシンポジウムなどを計画しては。

答 理事 経費の節減を考えると、合併に取り組んできた首長を



どうなる一市四町合併の枠組み

講師に来てもらう方が現実的で、今後、時期等を検討し、来年度予算の中で取り組んでいけるよう考えたい。

問 新聞報道によると、羽ノ浦町長が一市四町の枠組みを解消する可能性を示したが、法定協議会から脱退した場合、改めて住民説明会を行い、意向を聞く考えは。

答 町長 住民には情報提供をし、理解してもらおうよう努めたい。

子育て支援

ホームヘルパー派遣制度を

問 高齢者へのヘルパー派遣だけでなく、若い夫婦が日常生活に支障が生じたとき、ヘルパーに家事などの世話をしてもらおうサービス体制があれば安心して子育てができる。そんな制度を作ってはどうか。

答 町長 近年、特に少子化対策に力を入れてほしいと住民の要望が強い。いろいろな問題があると思われるので、

今後の検討課題としたい。子育て支援策や高齢者の福祉は県下では高い水準だと思うが、他の町村より遅れている六歳児未満の通院無料化を十五年度から実施しては。

答 光井福祉課長 六歳児未満まで無料化にすると、約四百万円の一般財源が必要となる。厳しい財政状況の中で

あるが、現行の三歳児未満から一歳引き上げに向けて実施できるよう努力する。

よってネ市

農業振興に

果たす役割は

問 よってネ市は十三年度の売り上げが約一億円となっている。不況の中で右肩上がりで成長している要因と、町の農業振興に果たす役割は。

答 戸川産業振興課長 利用者数は年間十万人で、安全、安心そしておいしいところが消費者に受け、成長したもの



農村体験学習（ふれあいの里さかもと）

と考えられ、町の農業生産額三十二億円の約三％の売り上げとなっている。また、生産者の流通に対する意識が目覚め、生産意欲が非常に高まり、生産者間の交流や情報提供の場となっているので、農業振興の中で町としても力を入れていきたいと考えている。

答 戸川産業振興課長 十四年十月末までの利用状況は、利用者数五千八百六十一人、うち町内の利用割合は約四十八％利用目的は宿泊、体験、イベント参加、食事などである。収支状況は、収入が宿泊費九百九十二万円と食事代千四百二十四万円が主で、収入額は二千七百八十五万円。支出は人件費千三百二十六万円と材料費七百十六万円などあわせて二千八百四十五万円となっている。

ふれあいの里さかもと 収支状況は

問 十四年三月のオープン以来、運営委員会の努力などにより町内外からの利用者も多く、

不法投棄は減ったのか

残念ながら増えている（住民課長）

川端雅夫 議員



不法投棄が確認されており、残念ながら増えている。今後も監視体制を強化していきたい。

問 粗大ごみの回収を年三回実施しているが、手数料だけで必要経費は足りるのか。

答 山平住民課長 搬入が少なくなっており、町費を少し補充している。

問 巡回パトロールで、ごみの不法投棄は減ったのか。

答 山平住民課長 現在までに十一件の



増えている不法投棄

問 環境問題が重視されているが、ISO

「一四〇〇一」を取得している。

答 山平住民課長 人や経費の問題で、取得まで考えていないが、引き続き環境美化に努力していきたい。

問 取得するための経費はかかるが、結果的には、環境保全の将来的投資と思うが。

答 町長 いろいろな問題もあり、今は取り組む気持ちはない。

ふれあいの里きかもと 平日営業も 必要では

問 土曜、日曜と予約していないが、今後、平日営業も検討しては

土曜、日曜と予約していないが、今後、平日営業も検討しては



高すぎる公共事業の諸経費

答 戸川産業振興課長 いろいろ問題もあるが、地元と協議していきたい。

問 公共事業の諸経費は高すぎる。見直しをすべきではないか。

答 坂井建設課長 毎年、国土交通省が経費率を設定しているが、ここ数年、公共事業の生産コスト削減対策の指針が出されているので、それにそって削減を図ってきたい。

公共事業の 諸経費見直しを

答 坂井建設課長 沖野工区は来年度も引き続き施工する。

問 飯谷工区は、用地交渉ができていない箇所を施工する計画である。

答 棚野と中角工区の改良の見直しは、坂井建設課長 棚野の拡張は用地の関係で今すぐには難しい。

問 十五年度の交通安全対策事業で用水にふたをして歩道を設置することになっている。

答 中角は用地の協力が得られれば、県に要望していきたい。

問 週五日制 学力低下の 心配は

答 松浦教育長 小学校では、個別指導が必要な子供に対しては担任が補習を行っている。中学校では十月から、三年生を対象に週三回の補習を実施している。現在、那の校長会で授業時間確保のため、学校行事などの見直しを協議中である。

問 授業時間の確保に努力する（教育長）

答 総合学習の現在までの取り組みと、問題点は、

問 松浦教育長 小学

校は図書館やクリンセンター、正木ダム等を見学したり、喜楽苑でお年寄りとの交流も図

っている。中学校では、勝浦川クリーン作戦や、保育所、老人ホームに出かけ、体験の中で人思いやる心、豊かな人間性を育成する取り組みをしている。問題点は、安全面で不安があり、引率の先生が多く必要なことである。

問 週五日制による学力低下の対応と、塾通いの状況は。

答 松浦教育長 小学校では、個別指導が必要な子供に対しては担任が補習を行っている。中学校では十月から、三年生を対象に週三回の補習を実施している。現在、那の校長会で授業時間確保のため、学校行事などの見直しを協議中である。

また、小学校の五、六年生で四十五％、中学二年生では、八十七％が塾に通っている。

ISOとは
国際標準化機構の略で、四〇〇一は国際的な環境標準の規格番号である。

合併

徳島市を考へては

答弁差し控えたい(町長)

福徳重二議員



静沈着し様子を見ていきたい。

一市四町の足並みがそろっていない

状況で、経費と労力を使つて合併協議をしても意味がない。羽ノ浦町が離脱する前に合併問題を全

て白紙にして、合併が必要だとするなら徳島市との合併を模索してはどうか。

町長 徳島市との合併論について、現時点での答弁は差し控えたい。

柳原改良はいつ

水害防護壁設置の陳情が掛谷地区から出されている。地域としては「水害防護壁がで

問 勝浦川、那賀川流域一市四町の枠組みで合併協議を進めているが、町民からは、町長主導での合併の進め方はおかしいのではないかと声がある。また、羽ノ浦町議会議員選挙で合併反対議員が多く当選した。合併協議会が順調に進むとは思えない。羽ノ浦町が枠組みから離脱する可能性が高い現状をどう思うか。

答 町長 新聞報道等不安はあるが、冷



いつになったら拡幅できるのか 県道柳原

ければ県道柳原工区の拡幅改良に同意する」と言っているのに進展しないのはなぜか。また、町長助役は柳原問題は新今山橋と同時進行で進めると明言した。橋は完成しているのに柳原は解決していないのはどういうことか。

答 町長 県と地域との意見が合わないという事で遅れている。勝浦郡民の悲願なので今後も努力したい。



町が業務委託している業者

し尿処理 複数業者の

考えは

問 既存業者以外からし尿処理等業務の許可申請が提出されて一年が過ぎる。「複数業者にしてサービスの向上を

しては」と町民の要望があるが結論が遅すぎる。生活廃水処理基本計画に基づいて早急に結論を出すべきでないか。

答 町長 人口減少に伴い、勝浦町の環境行政が今後どうなるのか、総合的な判断の中で慎重に決めていく必要がある。

環境美化の徹底を

問 リサイクル法制定後、家電製品、粗大ごみについては有料で収集しているが、また不法投棄もある。また、産業廃棄物に似たものの山積み、広範囲な草の生え茂りなど、目にあまるものも多くある。住民間では注意をしにくいので、行政が環境美化の徹底した注意、喚起を促しては

答 山平住民課長 廃棄物処理の清掃に関する条例を具体化するため、環境を保護する要綱を制定した。また、地域でもボランティアグループを組織してもらい、常に住民が監視し、行政とともに環境美化に積極的に取り組みたい。

みかん消費減の要因は

消費者し好の変化も（町長）

中西晴美 議員



問

町長 消費者し好の変化、輸入果物などの増加、不景気が要因と思う。また、消費者ニーズに合った生産ができていないのではないかと。県下の生産量を見ると早生みかんが晩生より多くなっているが、今後の町の振興策はどうするのか。また、消

答

戸川産業振興課長 推奨品種を古田と十方に決め、改植、園地改造などに補助事業で対応する。また、秋マルチの推進もしていきたい。販売は、手選別によるコンテナ出荷、よってネ市を中心とした直接販売や、消費者との交流事業も推進していきたい。

問

費促進対策は。町長 急傾斜で雨量の多い勝浦町では、貯蔵みかんを中心とした生産体系をとるべきと思う。

答

鳥獣被害の状況と対策は。戸川産業振興課長 被害状況は、現在共済組合が調査中である。対策としては、有害鳥獣駆除と捕獲免許取得による自己防衛の二本立てで取り組みたい。

問

今年のみかん販売額と中山間直接支払制度を合わせると、農家所得はどうなるか。

答

島務課長 五百四百万円の補助金があっても、みかんの販売価格が今のところ思わしくないで、農業所得増は厳しい状況である。

合併は職員のためでは 保身のためでは

問

第五回の合併協議会の重要案件は職員の身分の取り扱いであったが、合併しても今の給料は保証され、人員も余り減らない。合併は住民の幸せや財政再建の必要であったが、これでは職員のための合併ではないか。

答

町長 法律や協議会の取り決めこそ

問

勝浦町は歳出を削減して、剰余金をねん出して頑張っているが、合併相手の小松島市は六百億円以上もかかる下水道事業を推進したり、数年先には膨大な投資が必要な衰退した旧商店街再開発の計画がある。また、同和対策に要する費用も全く不透明である。これでは合併しても、

答

町長 合併が必要なのは、財政難が一番の要因である。相手の欠点ばかり突いたのでは合併はできない。合併しても今よりは悪くなり、合併しなくても悪くなる。基本姿勢で取り組んでいる。



再開発計画がある小松島の旧商店街

問 全国の十四年産みかんは、栽培面積で三千四百ha減少したが、数量は百十五万三千tと一昨年の不作年と同じ生産予測である。昨年と十年前を比較すると数量で七・一%減、金額で二十六%減少している。また、三十年前には国民一人当たり年間二百三十一個のみかんを食べていたが、現在では五十九個となっている。生鮮果実の消費が減り、果汁などの消費が伸びているが、その要因をどう見るか。



輸入果物の増加で消費が低迷するみかん

立川谷の清流を守れ

住民パワーを支援したい（町長）

西浜勝己 議員



立川谷の清流を守れ

問

立川地区に建設業と産業廃棄物処理業を営む町外の業者が、建設資材置場を設置するとして農地転用許可の申請が出されているが、産業廃棄物の投棄が懸念される。問題の場所は立川谷に隣接しており、水が汚染されると、全的に利用している畑に大きな影響が出る。公害問題や道路問題等で住民は絶対反対を叫んでいるが、

答

どう対応するのか。戸川産業振興課長 農業委員会に転用許可申請が提出され、町も業者から事情聴取を行った。法的問題もあり書類は県に提出したが、業者も補正の書類を県に提出することになっている。

答

山平住民課長 清流を汚染する心配もあり、何回となく巡回している。気づいた事があれば県と連絡を取り、万全の措置を講じていきたい。

答

坂井建設課長 業者からの事情聴取で四七車で一日四、五回運搬することであった。現場に進入する町道にある橋は五トの重量制限をした。補強等を行うには、町の許可が必要だと業者に指導した。

答

町長 産業廃棄物投棄については、町に権限はなく、県の対応になるが、申請はあくまで建設資材置場であり、産業廃棄物を持ち込むという確たる証拠がないので町が先頭に立って反対することは難しい。住民の署名活動や反対運動を

中心に、町はできる範囲で一緒になって阻止していく必要がある。

一市四町合併

脱退する町が

できるのでは

努力中だから 状況を見守る

問

協議会の設置は一市四町の枠組みだから賛成してきた。他町に脱退の動きがあるが、枠組みが崩れる心配はないのか。協議会で本音の議論ができないのでは、先行きが危ぶまれる。また、委員が質問しなければ重要事項の経過報告もしないのは、問題を先送りしているのではないかと。

答

町長 協議会では活発に議論してもらった必要はあるが、それぞれの市町の問題は個々に解決した後、合併に向かうという基本姿勢なので、相手を傷つける本音を言うべきか苦慮するところである。個々の町が努力しているので、調整の必要はあるが、今は冷



スクールバスを利用して総合学習を充実

静沈着に状況を見守りたい。

新年度予算は

どうする

厳しいが今年度 程度に（町長）

問

新年度予算編成に向けて各課の重要項目は、また、合併を想定した予算計上はあるのか。

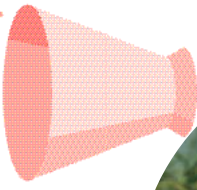
答

秋成総務課長補佐 福祉課は勝浦会館の大規模改修と沼江保育所跡利用の子育て支援事業、教育委員会では、ス

答

町長 合併を想定し、大きな事業に取り組むべきかどうか考えているところである。厳しい財源であるが、本年度程度の予算は確保して、可能な限り住民の負託に答えたい。

声のひろば



美しい自然や人の暖かさをいつまでも



作本久枝さん
(愛媛県松山市出身)



Q 故郷はどんなところですか。
A 「坊っちゃん」で有名な道後温泉に近く、気候は温暖で過ごしやすく、伊予柑がとてもおいしいところです。

Q 勝浦町に住むことになったきっかけは。
A 主人と松山の同じ職場で知り合い、長男出産後、徳島地区担当になったので昭和五十六年に勝浦へ帰ってきました。

Q 家族構成は。
A 主人と母、長男、次男、長女それと犬一匹です。

Q 勝浦町の印象は。
A 初めて来た時は、かなり山奥だと思いましたが、今山はまだ勝浦の入口だと聞かされ驚きました。家の前には大きな川がゆったり流れ、山もすぐ近くにあつて、子育てには良い環境だと思いました。

Q どんなお仕事ですか。
A 洋蘭の鉢物栽培をしています。

Q 里帰りは。
A 年に二回、みんなで帰ります。高速道ができる前は六時間ぐらいかかりましたが、今は三時間で帰れるようになりました。



Q 趣味は。
A 読書です。

Q 好きな言葉は。
A あしたがあるさ

Q どんな町になればよいと思いますか。
A 山や川の美しい自然と人の暖かさも変わらないで、みんなが住みよい明るい町に願っています。

編集後記

月日は百代の過客にして、行きかふ年も又旅人也。(松尾芭蕉)

二〇〇三年、明けたと思つたら早や一か月が過ぎた。旅人の余りの早さについて行けない。いつの年代からこんなに歳月のスパンが短くなってきたのか。

世界に目を向ければ今年も情勢は暗いことばかり。イラクに対するアメリカの攻撃が不可避の様相、北朝鮮の核開発問題、日本国民を巻きこんだ拉致事件など一部の指導者の横暴で国民がその代償を受けるのではたまらない。

議会だよりも今回で二十二号。皆さんの言いたいこと、日ごろ思っていることや率直なご意見を寄せていただき、ページを飾れる機会も作りたいと思う。(榮)



最終校正は印刷会社で